

資源環境経済学特別演習Ⅱ 議事録
2014年度 第2回

報告題名 (title) : 中国における地理的表示の普及要因に関する研究			
報告者 (name)	オウキエイ	日時	6月19日 午後3時～
所属分野 (labo)	農業経営経済学	場所	第2講義室
座長	伊藤 航平	議事録担当者	西田 陽平
出席者			
木谷、盛田、米倉、冬木、高篠、伊藤、石井、宮里、山口、バユ、カライ、ナスン、ユニクロス、西田、オウ、渥美、伊藤、江守、小田嶋、キンキン、藤井、町田、黒岩、嶋倉、Boby、Ari、Dani、秀、Tian			
報告要旨 (Abstract)			
<p>「地理的表示」はただの産地表示ではなく、当該産品の優秀な特性が当産地の自然要因又は人文要素に引き起こされたことを証明できる表示である。現在、実際の応用過程の中に、中国地理的表示の効果は両極化になった。自分の収入を高めるために、生産基準を満たさなかった農家たちは非法的に地理的表示を利用し、品質が悪い産品を出荷した。そして、地理的表示が市場からの信用を失った。要するに、地理的表示についての”タダ乗り”現象が発生した。一方、地理的表示の利用権がある農家たちは地理的表示の市場効果が自分予想と不一致の原因で、地理的表示の使用権を放棄した現象も発生した。</p> <p>上述の二つの現象は中国地理的表示役割の失効である。中国における、地理的表示の普及に悪い影響を及ぼす恐れがある。</p> <p>中国における地理的表示の作用失効のせいを1つの方面にするのは不合理だと考え。中国地理的表示制度を設立するとき、設立部門が地理的表示の特性と限界性対し正しく理解できないため、地理的表示制度についての問題発生した。同時に、地理的表示の利用者が正確に地理的表示制度を認識できないため、地理的表示産品のブランド化に取り組みも失敗になった。本文は中国地理的表示制度、地理的表示の限界性と特性、地理的表示利用者の取り組み、3つの方面から、中国地理的表示の作用失効の原因を考察する。</p>			

質疑・応答(Q & A)

伊藤航平：経営面以外での分析ではどのように考えられるか？

オウ：修士論文の中では、経営面以外にも制度の問題、地理的表示の特性の問題の面で分析している。経営面の課題を含めて、3つの問題があると考えている。

伊藤航平：タイトルでは「中国における地理的表示の普及要因に関する研究」となっているが、その3つは研究の中でどのような位置づけになるのか。

オウ：この3つの問題は同時に起きている。3つそれぞれに関連性があると考えられる。

伊藤航平：既往研究の蓄積はどれほどあるのか

オウ：既存研究では地理的表示の不正利用については述べられているが、使用権放棄については述べられていない。

伊藤航平：地理的表示の有効性や事例報告はどれほどあるのか。

オウ：2004年の前までは地理的表示の制度と貿易の関係性についての研究が多く、2004年以降は地理的表示産品を利用した経営モデルや不正利用の現状、申請動機などについての研究が多い。

伊藤航平：既往研究のレビューはあるのか。

オウ：今回の報告には入れていないが、論文には入れている。